

そうだ！ 田舎にくらそう

2016.

元・川西町地域おこし協力隊の6年後のお話、
企画・構成・文・撮影etc...全部：塗真旭
イラストモデル：チャッピー（元・小万家）



A 月

← 玉庭ひなめぐりに参加しました!!

なな何と！今は4月14日の深夜2時で原稿が間に合わないかもしれない！

もし、5月に掲載されていたらすいません。。このあいだNHKの「U-29」という番組を観ていたら、次回は川西の元協力隊の吉田君が出演するそうです！玉庭の手仕事やグラフィックデザイナーの仕事について放送されます。川西町特集！？じゃないかもしれないけど、同じ川西の玉庭の魅力を伝えてくれると思うので、興味のある方はご覧になられてはいかがでしょうか！

さて、3月末は「玉庭ひなめぐり」に参加してギターを弾きました。色々な会場を移動して、飛び入りで演奏したので、おもてなし？出来たかどうかは別として、自分なりににはちゃんとしたつもりです。

僕はインストといわれる「歌なし」の曲をやりますが、ギター1本で色々な表現をするのが好きです。ボディヒットやライトハンドなどは、置賜の情景が思い浮かぶような雰囲気が出せるし、感情にリンクするから好きです。といっても、実際はすごく地味な音楽で、音が流れていない「間」でも、僕の頭の中には音が流れてるのですが、当然、聞いている人には聞こえないわけで。そういう意味では身勝手な音楽なのですが、自分が表現したい事をギターで弾いて、作曲して、試行錯誤してるのに、聞いている人に合わせる必要性はまったくないので、このままやっていようと思います。が、しかし、満足度が低いんですな。もっとこうしたい、こういう音が欲しい！というイメージはあるけど、それがギターの音でなかったり、映像だったりするわけだから、限界はあるかもしれませんね。だから、いつも未完成な状態でシャカシャカ弾いてるわけですが、満足するまで待っていたら死んでそうなので、常に、弾き続けることにしています。



中古ギター買いました。1974年製Greco EG600です。¥32000ナリ。42年前の楽器が手に入り満足です！なぜ、買ったかといえば、昔、父親がEG700かEG800をアルミのふちがあるハードケースで弾いていたので、自分もほしいなと思ってたわけです。多少違うけど、ケースも当時のものです。しかし、中の繊維が劣化していて常用というわけにはいきませんね。張替え出来るかな!?Gibsonのレスポールは高すぎて1970年代は買えなかった時代、日本メーカーのコピーモデルは憧れがつまっていた、色々想いを感ずります。古いものもいいとは思わないけど、古くてもいいものはたくさんあることは知ってるので、時代の流れを、受け継いだつもりで所有したいと思います!!

「大人とは、裏切られた青年の姿である」
ということで太宰治記念館に行きました。車で8時間くらいかかります。ぼろい車だと壊れます。又吉先生効果なのか？人がたくさんいました。この町は太宰治様様だと思いきや、なな何と津軽三味線発祥の地であるのです！弦を弾くのに目がない僕にはうれしい事です。生演奏を聴きました。リズムが独特で、かなりフリーな演奏ですが、ピッキングやアタック音はかなり正確で、上手さはその辺にある楽器です。あとは間をコントロールする技術が高いです。その昔、三味線界のジミヘンみたいな人は目がみえない方らしいですが、三味線で色んな世界見てたはずです。



↑新潟に来て「米沢」だった！

新潟県関川村に「渡邊邸」というお屋敷があります。3年位前にも行きましたが、また行きました。何やら米沢藩にをずっと援助していた、米沢の恩人みたいな一族なのです。まあ、僕が知らないだけかもしれませんが、米沢に住んでると、上杉鷹山がヒーローなのですが、こういう「渡邊」一族がいたからこそ、今の米沢があるので、こういう友好ストーリーはもっと周知したほうが、ホントの意味で「愛と義のまち」だと思います。「渡邊」さんも余裕があるから援助してたんじゃないでしょうね。人の世話になるというのは、そういうもんです。金がないというのは辛いんですよ。どんな環境で育とうが、人間的に卑しくなったり、正義とか秩序とか、どうしても自分の都合のいいように考えてしまう。余裕がないから。いつの時代も人間は同じ生き物ですな。元おぼっちゃんの太宰治は、インテリのデキスギ君だったからこそ、芥川龍之介に憧れてしまうのだし、自分もそうなりたいたと追いかけてしまふんでしょうな。でも、作品と認められるのは教養があるからでしょうね。さて、お花見行こう。